

予報期間 2月12日から2月18日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 14日は、高気圧が日本の南を東に移動し、低気圧がモンゴルから中国東北区に東進する。
- 15日から16日は、低気圧がサハリン付近を通ってオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。また、別の前線が東シナ海から日本の南にのびる。
- 17日は、高気圧が日本海から日本の東へ移動し、前線が日本の南に停滞する。
- 18日は、低気圧がサハリン付近に進む。

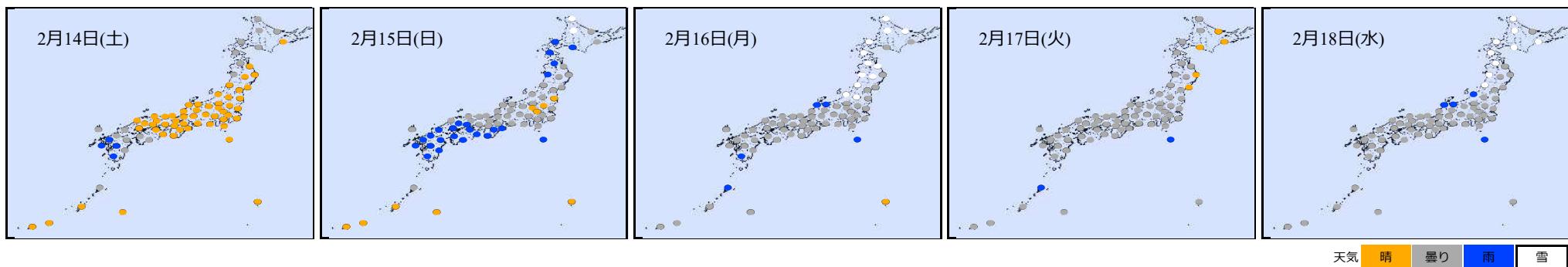
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

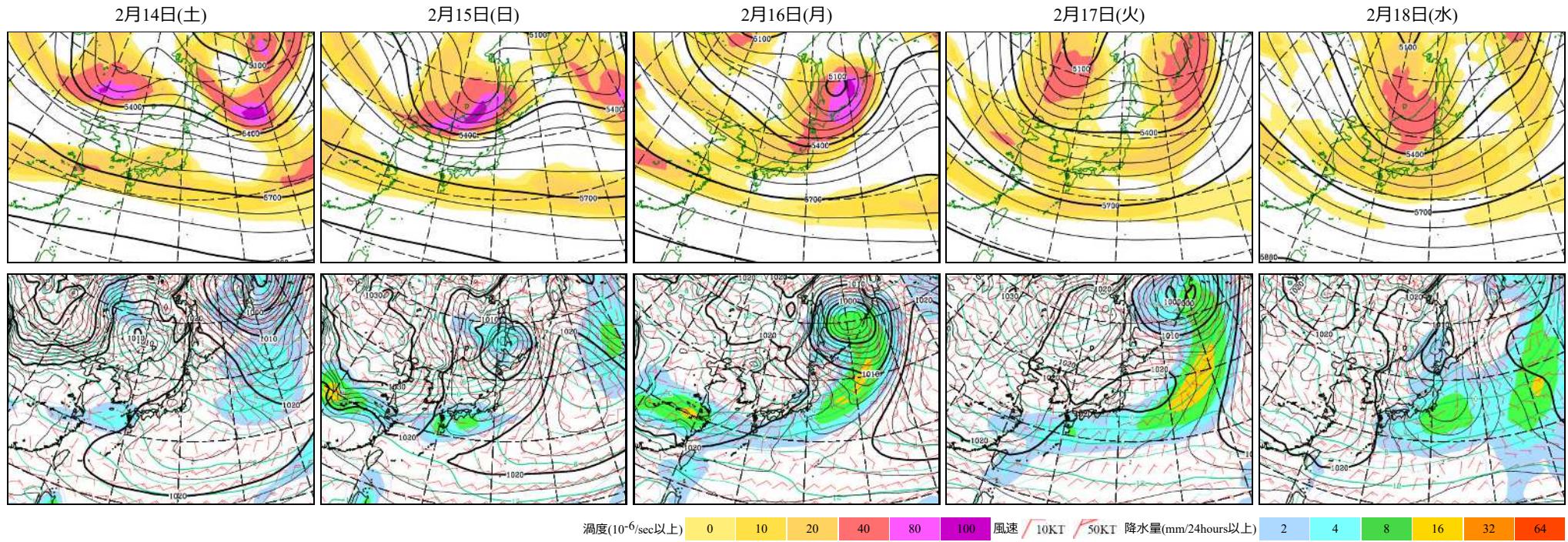
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

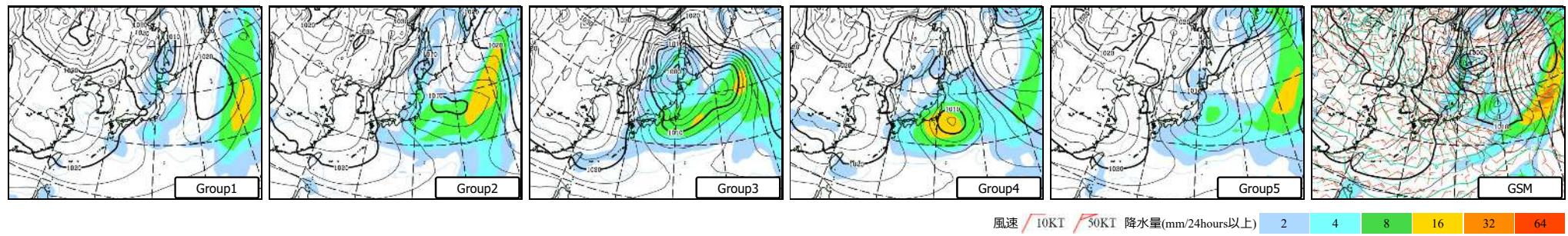


- 北日本と東日本日本海側は、雲りや雪または雨の降る日が多いが、14日は晴れる所がある。
- 東日本太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 西日本は、曇りまたは雨の降る日が多いが、14日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、16日と17日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月18日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、15日から17日にかけて中国東北区から日本の東に進むトラフの東進が遅くなり、16日は千島近海の低気圧が西に寄った。17日はカムチャツカ半島付近の低気圧が強くなり、東日本付近の高気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、14日は西日本で大きくなかった。15日から16日にかけて西日本で小さくなつた。
- 期間後半は、スプレッドは大きく、特定高度線のバラつきも大きい。
- 15日から16日にかけてサハリン付近からオホーツク海に低気圧が進み、17日は高気圧が日本の東に移動する予想は各モデル一致しているが、15日から17日にかけて日本の南の前線の位置にはモデル間の差がある。18日の気圧配置はモデル間の差が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。